

# 第9回江戸川総合人生大学祭

## 「10周年インタビュー 学科長と語る」



日時：2014年7月26日（土）11：40～

場所：タワーホール船堀 展示ホール内ステージ

出演：佐谷和江（江戸川まちづくり学科 学科長）

※以後「佐」と表記

ジョージ・W・ギッシュ（国際コミュニティ学科 学科長）

※以後「ギ」と表記

秦野玲子（子ども・子育て応援学科 学科長代行 ※当時）

※以後「秦」と表記

矢郷恵子（介護・福祉学科 専任講師）

※以後「矢」と表記

司会：前田直義（国際コミュニティ学科9期）

※以後「前」と表記

斉藤幸江（介護・福祉学科7期）

※以後「斉」と表記



【前】 それではこれより「10周年インタビュー 学科長と語る」を始めさせていただきます。まず本日ご出席の先生をご紹介させていただきます。江戸川まちづくり学科、佐谷先生、国際コミュニティ学科、ギッシュ先生、子ども・子育て応援学科、秦野先生、介護・福祉学科、矢郷先生です。

それから司会ですが・・・

【斉】 介護・福祉7期の斉藤幸江と申します。どうぞよろしくお願い致します。

【前】 私が国際コミュニティ学科9期の前田と申します。よろしくお願い致します。それでは、先生方よろしくお願い致します。10周年記念の企画ということですので、10周年にちなんで、色々



とお聞きしたいと思います。それではまず1つ目です。10年間先生方に教えていただきましたが、これまでを振り返ってお一人ずつご感想や思いをお聞かせいただければと思います。それでは佐谷先生からお願い致します。

**10年を振り返っての感想**

【佐】 10年についての感想ですね。今日もたくさんの卒業生に来ていただいています、私は懐かしい顔に会えるというのが非常に楽しいです。また



10年続けてきた蓄積を、大学祭や卒業生の活動を見て感じました。

今思っていることは、この10年続けてきてこれからも続けていきたいな、ということもあるのですが、一方で同じようなことをこれから

10年やっていくのではなく、マンネリに落ち込まないようにこれからの10年を考えていくことが非常に大切だということです。

【前】ありがとうございました。続きましてギッシュ先生お願い致します。



【ギ】もともと私は10年という約束ではなく、1年だけやってみる、と思っていたら、1期生が2年次になって続き、1期生が卒業する時には2期生が2年次になることになり、1年で辞める訳にはいかなか

ったのです。(笑)

先程佐谷先生からもありましたが、10年の節目にこのままではどうかなあ、と思います。もちろんこれまでの10年間は良かったと思うけれど、これからは、江戸川区全体にあちこち散らばっている卒業生が、自分の地元にいる4学科の卒業生同士でその地域に徹底してコミュニティ作りをしていくことを希望しています。そしてそれが全体につながってネットワークングしていったらいいと思います。

そういった意味で人生大学の学生には、各地域に総合的に、この10年を土台にして、コミュニティを広めて行ってほしいです。

人生大学の話をカリフォルニアやシカゴで話すと、向こうでも江戸川区は素晴らしい取り組みをしていると言われます。今、世界には共通してコミュニティ作りに問題があると思っていて、国際的なコミュニティではなくそれぞれの国の中でのコミュニティが作られ、住みやすい地球になることを皆望んでいます。そういった希望を江戸川区でもいつも大切にして、これから世界の人達と手をつないで、男性も女性も、大人も子供も一緒になってコミュニティを形成していったらいいと思います。

【前】では続きまして秦野先生お願い致します。



【秦】佐谷先生がおっしゃっていましたが、その通りで、大学祭に来て卒業生のお顔を見るとほっとします。

子ども・子育て応援学科は2回名前が変わっているのですが、もともとは「現代家庭経営学科

子どもコース」という名前でスタートしました。1、2期生の頃は子育て当事者の方が割と多く、その時時小学校低学年のお子さんがいらした方と、最近食事を一緒にした際に「お子さんいくつになりましたか」と聞くと高校生になっていて、懐かしみながら時間の経過の速さに驚きました。

毎年講師として大学に来て、いつも皆さんの学ぶ意欲に触発されながら学びのお手伝いをさせていただ

いています。これだけたくさんの方々が地域のために何ができるかな、と考えてここに来ていることが素晴らしいと思います。

また私は生涯学習関連の仕事をしているものですから、色々な自治体、時には関東圏を離れたりして自治体での研修・講座を講師としてお手伝いに行きますが、こちらのように2年計画で学んで、それがずっと続いているというところは少ないです。「生涯学習大学」をワッと華々しく旗揚げしたけれども、いつの間にか衰退しているところもある中で、今後の10年をもっと発展していこうという風に進んでいるのは、土台がしっかりしているからだろうと思います。そこに関わらせていただいていることがありがたく、あらためて感謝しています。

【前】ありがとうございました。では矢郷先生お願い致します。



【矢】介護・福祉学科の矢郷です。10年の思いといいますと、毎年色々な学生さん達が入ってきて、毎年クラスの雰囲気違います。今、それぞれのクラスを思い出して、私は歌に当てはめて

いるのですが、1期生は「青い山脈」でした。とにかくひたむきに前向きに、新しいものに向かってみんなて手をつないでいこう、という雰囲気がありました。6期生になると、「みまもり隊」を立ち上げたクラスなのですが、「とんとんとんからりと隣組」だと思いました。震災があったりしたので、みんな

隣の人の肩をたたいて、なんとなく一緒にやっ  
ていこうよ、という雰囲気がありました。今年  
の9期生は「人生いろいろ」だと思っ  
たのですが、どうやら「富士山」の歌  
みたいです。少し頭を出してみんなで  
頑張っていこうという雰囲気があります。

毎年そういった雰囲気のクラスに出会  
うことが大きな励みだったのですが、  
毎年10月に会った時は「この船はど  
うなるのかしら」という気持ちになり、  
どこにどう向かって出ていくのだら  
うと思うけれど、最後はきちんと港に  
入り、ちゃんとみんながひとつにな  
れるのです。

10年間を見てきて思うのは、学生  
の何か人に役立ちたいという心がす  
ごいなあということで、こういった  
気持ちを持った人達に支えられて大  
学があって、これからもみんなと  
人の輪や思いを育てていきたいと思  
っています。

【前】ありがとうございました。矢郷先  
生は歌に例えていらっしゃいました。7  
期はどうですか？

【齊】少し残念なのですが、私たち  
はひょっこりひょうたん島なのです。

【矢】7期は個性的な人が多くて、  
個性的な人達が同じ船に乗って、勢  
いはすごいけれど、どこへ向かうの  
だろうというところがあって、ひょ  
うたん島のようにたどり着く先がな  
いけど出航しているような感じが  
ありました。

【齊】まさしくその通りです。私  
たちのクラスは本当に色々な方が  
いて、色々な考えがいて、でもな  
んとか最後にきちんとまとまった  
一つの船に乗って手をつないでい  
けるという、本当に変わった、楽

しくて明るいクラスでした。

### どんな学生に入学してほしいか

【前】同窓生からの感想も出ました  
ところで次の質問に移ります。

これから人生大学をどうしてい  
こうか、学科はどうしていこうか、  
ということや、こんな学生に来て  
ほしいということもありましたら  
お話しだけでもすでしょうか。

【矢】介護・福祉学科の大きな  
特徴は、自分が年齢を経ていく  
とか、家族に介護する人がいる  
とか、自分の関心と学科の学びが  
一体になっているので、割と地  
域の中でこんなことしてみたい  
な、という思いも一体になりやす  
い学科だと思っています。

介護・福祉学科は地域でできる  
こともたくさんあるし、自分自身  
が学ぶこともたくさんある学  
科だと思っています。

どんな方に来ていただきたいか  
という、人は選びません。とに  
かく介護・福祉では誰にでも  
力になれることがあると思  
うので、好奇心と若ささえあ  
ればどなたでも受け付けま  
す。お待ちしております。

【前】ありがとうございました。で  
は続きまして秦野先生お願い致  
します。

【秦】学科の名前が「子ども・  
子育て応援学科」という名前  
になったことで、当事者よりも  
少し引いて、子育てがひと  
段落したから応援しようかな、  
という世代の方が増えてきた  
ように思います。子育て中  
の方も入ることで学びに膨ら  
みが出ると思うので、是非  
子育て真っ最中の方にもも  
っと来ていただきたいと思  
います。また子育て経験者  
だけでなく、お子さ

んがいらっしゃらない「子ども  
がいない」という体験をされ  
ている方のご意見は大変貴重  
だと思うのでそういう方にも  
是非来ていただきたいという  
のが私の希望です。

これまで地域という大きな  
枠だけでなくクラスの中の  
グループでのコミュニティの  
合意形成プロセスを大事に  
してきたので、今後も色々  
な運営の方法など授業の中  
で小さなコミュニティ作り  
から大事にするということは  
続けていきたいと思っています。

【前】ありがとうございました。  
ギッシュ先生お願い致  
します。

【ギ】江戸川区には国際的な  
経験のある人がたくさん  
いらっしゃいます。一度会社  
から離れて一人きりにな  
っても、人生大学に入学  
すれば江戸川区や自分  
も変わっていくことが  
できます。

これから入ってくる学生  
には、江戸川区民である  
という自覚を持った地球  
人であってほしいと思  
います。地球人である  
ということは地球的な  
問題はどのような  
問題かを考えること。  
置き換えれば自分の  
住む地元で何かでき  
ないと世界を変える  
ことはできないの  
です。まず地球人  
としての自覚を持つ  
、その上に自分に  
しかない人生の体  
験、才能など他の  
人にもないものを  
発見してほしい  
です。また自分  
と違う人生、違  
う才能、違う文  
化を持っている  
人と共にコミュ  
ニティ作り  
に励むことを  
目標にしてほ  
しいです。江戸  
川区から人種  
を超えて素晴  
らしい地球  
を守りなが  
ら新しい世  
界を一緒に  
作ってい  
こうとい  
う意識  
を持ち、  
平和的な  
まちづく  
りを世界  
に発信  
してい  
けるよ  
うな  
人に入  
学して  
ほしい  
と思  
いま  
す。

【前】 それでは佐谷先生お願い致します。

【佐】 江戸川まちづくり学科は以前は江戸川学科という名前でその頃の 1、2 期生ではクラスの 6~7 割が男性でした。それが現在は女性の方が多くなりました。その理由としては江戸川まちづくり学科という名前が変わったということもあるとは思いますが、まちづくり学科は地域デビューと言って、定年した人が地域で暮らしていくための窓口として入りやすいのではと思っていて、男性が地域に入りづらかったという時代から、今は女性もずっと働いてきた方が地域に入りづらいというところもあって、男女比が変わってきたのかな、と思います。

10 年の変化でいうと、10 年前は 60 歳で定年だったのが現在は 65 歳定年が普通になってきています。そこで入学してくる方の年齢も上がってくるのかと思います。

江戸川まちづくり学科は地域デビュー、地域で暮らしていくための窓口としての役割があると思っているので、そういう方々に入ってきていただきたいと思います。

また今の形式だとなかなか難しいと思いますが、若い人達にも入ってきてほしいと思います。夜間や土日の授業になるかもしれませんが、若い人達も地域で活動していくという風にしていかなければ、地域はもたないと思っています。今はリタイアした人達が中心として地域を支えています。もっと地域の中で暮らしやすくしていくには若い人を巻き込みながらやっていくことが重要だと思っています。

【齊】 ありがとうございます。お話しを伺ってい

て、今はこれからの人生大学の在り方を問われている時だと思いました。お仕事をしてきた方、子育て中の方、若い世代の方に入ってきてもらうためには、人生大学が改革していかなければいけない時になっていると感じます。人生大学の中で色々な方と出会うことは、人生において最高の経験だと思っています。また同窓生として同窓会に入ることで、また違った出会いをすることができ、最高の贈り物として大事にしていきたいと思っています。



#### 卒業生へのエール

【齊】 それではここで最後の質問をしていきたいと思っています。この大学でたくさんの学生が巣立っていききましたが、その巣立っていった学生へエールをいただけますでしょうか。または活動しているグループへお言葉をいただければありがたいです。

【前】 是非活動している人にも、活動していない人にもエールいただければ幸いです。

【佐】 江戸川まちづくり学科はそれぞれの学年でメーリングリストを作っていて、卒業生が卒業後どのような活動をしているか、メーリングリストを見て

知ることが多いです。人生大学の活動というと卒業生で作った活動が目立りますが、それ以外のたとえば町内会、自治会の活動や、元々あった組織に入っている活動などもしている卒業生もいます。これらを見える化していくと、すごいパワーであることが分かると思います。卒業生の立ち上げた団体以外の活動も見えるように同窓会に動いていただきたいと思っています。

また現在活動していない方々もいて、それはそれで体調や都合に合わせて活動していただければと思いますが、是非仲間のつながりを持ってこれからも進んでいってほしいと思います。何らかつながりを保ち続けていくことで仲間との関係が続いていくのではないかと思います。

【前】 ギッシュ先生お願い致します。

【ギ】 この間長く付き合った人が亡くなられて、その方がおっしゃっていたのは「命は時間」ということでした。この 10 年間、共に過ごした時間が、その命が、どんなに大切かをお互いに再確認してほしいと思います。またこの命、今まで過ごした時間が種として次の世代に渡していくことが大切です。また海外での経験のある人も中高生など若い世代の人達と一緒にプロジェクトなどを通して、その経験を活かしていくことが大切です。

授業の形式だけでなく、次の世代の人達と活動の上でも若い人と同じ時間を過ごし、自分の命を次の世代につなげていくということが大切です。

【前】 ありがとうございます。では秦野先生お願い致します。

【秦】卒業生の方とお話しをしている時に、仲間とグループをつくり活動しているとか、団体に所属して活動しているという話題になりますが、そうしていないと肩身が狭いというか、引け目を感じてしまって、皆と集まるときに「私は何もしていないから、どうも行きにくい」という声を聞いて、それはとても残念なことだと思いました。

子育て真っ最中、子育てがひと段落したと思ったら親の介護、など自分の状況や家族の状況でまとまった時間を活動に使えないという場合もあると思います。ここで学んだことを種として、あちこちで小さな花を咲かせてくれているだけでも、江戸川区全体が温かい良い雰囲気になっていくのではないかと思います。例えば電車の中で子どもが泣いてしまった時に怖い顔でにらむのではなく、温かい目で見てくれる人がここから巣立って点在していくだけでも十分な価値があることだと思っています。

卒業してすぐだと勢いがある何か始めようかと意気込むけれど、少し時間が経ってから何か始めたいけれど、どうしようかと考えている人に、ここに来ると一緒にできるという場所、何でも受け入れる窓口のようなものと良いと思います。卒業した学科にとらわれず、今の関心事で動き出すことができるように紹介したり、一緒に活動してくれたりするようなことにも、時間やエネルギーのある方には活躍してほしいと思います。

まとまった時間がなくてもできる子育て支援を紹介したいと思います。私の鞆の中にはいつも編みぐるみの指人形が入っているのですが、電車の中で赤

ちゃんがぐずってお母さんもうしたら良いか分からない、周りも嫌な雰囲気になった時、指人形であやすと赤ちゃんが泣きやんだりします。泣き止むだけでその場の雰囲気も少しほっとします。まとまった時間がなくても今自分ができることを隣の人にやってあげるだけでも良いのではないかと考えています。この10年間を通して見える化はしていないかもしれないけれど、江戸川区のきっとあちこちで卒業生が小さな花を咲かせ、温かい空気が以前よりも増えているのではないかと考えています。自分にできることをやっていけば良いので、自信を持って過ごして集まりには顔を出して情報交換してほしいと思っています。

【前】最後に矢郷先生お願い致します。

【矢】私は世田谷区から来ました。なぜか江戸川区の区歌を歌うことがとても多くなり、世田谷の区歌は知りません。そういうご縁ができたのですが、実は世田谷はボランティアを支える情報がたくさんあるところ。自分の子どもの送り迎えをしてくれる人を探していたり、助産施設でちょっとごはんを作りに来てくれる人を探していたりなど、個人で参加できるボランティア情報がたくさんあります。個人でできるボランティア情報というのは、自分にできることを見つけやすいです。これだけ卒業生がいて大事なことは、もう少しボランティア情報が出たり、ボランティアを支えるようなシステムができれば良いと思います。団体を立ち上げて5~6年目に危機が訪れることがあります。それを乗り越えるためには色々な情報や色々な団体との交流だったりし

ます。「活動費がないのだけれど・・・」といった時に「うちはこういうことで助成金もらってるよ」といったアドバイスをもらったりなど、そういった情報交換会を通して団体が立ち直ったりします。そんな時につながりあえるようなボランティア情報センターや今ある江戸川区のボランティアセンターが大学とうまく連携して支えていけたら、卒業生の活躍の場や活躍の仕方が変わってくると思います。

また卒業しての良さは学科を超えて繋がれることだと思います。そこでボランティアすることも良いけれど、遊ぶこともとても大事なことです。ボランティアだけの真面目な付き合いだけでなく、飲んだり食べたり出かけたり、楽しんで良い時間を過ごしてほしいと思います。

最後に、どんな風に年をとっても、人には人を変える力、地域を変える力、社会を変える力があると思っています。自分自身の力を信じて広く社会に目を向けて、いつも生きている実感、喜びを噛みしめて過ごしてほしいと思っています。

【前】ありがとうございました。色々なお話しを伺っている間に、予定の時間が過ぎてしまいました。もっとお話しを伺いたかったのですが、時間の都合もごさいますので、質問は以上とさせていただきます。本日お越しいただいている中には卒業生も、入学をご検討されている方もいらっしゃると思いますが、本当に為になるお話しを聞くことができたと思います。本当にありがとうございました。

最後に先生方に拍手をお願い致します。